

地域福祉ガイドブックの効果測定に関する研究

研究代表者：柏原 正尚（健康科学部 助教）

研究期間 2008 年度

Abstract

地域には、様々な地域福祉ガイドブックが作成されているが、その効果測定に関する研究は希少である。

本研究では、2004年に名古屋市熱田区社会福祉協議会で策定された『熱田区地域福祉活動計画』の新規事業「福祉マップ・福祉ガイドブック」に着目し、作成された『HOT! SHERPA—あつた福祉行事・イベントガイドブック—』の効果測定を行った。ここでの効果とは、ガイドブックのテーマが「福祉行事・イベント」であることから、同ブックを配布した人の、行事・イベントへの参加行動実績と設定した。

測定の結果、参加促進キャンペーンを実施したこととも大きく関連するものの、分析対象者56名中、最も大きいイベントでは40名が実際に参加している。そのうち、20名はそれまでそのイベントには参加経験がなかったことをふまえると、行動実績による効果測定が一定可能となることがわかる。

1. 研究の背景と目的

地域福祉ガイドブックは、地域社会において、地域福祉推進に寄与するガイドブックの総称であり、多種多様な内容のものが存在する。しかし、その効果については、ほとんど実証的研究がなされていないのが現状である。そのため、本研究では、第1次熱田区地域福祉活動計画（2004～2008年度の5カ年計画）の新規事業「福祉マップ・福祉ガイドブックの作成」におけるガイドブックの効果測定を試みることとした。

地域福祉ガイドブックは、通常、孤独や虐待防止、介護、子育て、青少年育成、防犯、地域助け合い、その他様々なテーマが設定される。このテーマ設定

や作成方法は、実に様々で、作成の担い手も専門家からボランティアまで多様である。その中で共通することは、地域の事情に応じた必要な情報を、わかりやすく、創意工夫して掲載する点である。そのため、ガイドブックの効果を検証する上で、どうしてもその作成プロセスや担い手の経験といった質的側面に重点が置かれてきたのが現状といえる。

地域福祉の推進において、これら質的側面の重要性は異論のないところであるが、実際、ガイドブックのテーマに対応した量的な効果測定をすることも可能であり、その一例を本研究で提示したいと考えた。

2. 研究方法

本研究が地域福祉ガイドブックの事例として取り上げるのは、『HOT! SHERPA—あつた福祉行事・イベントガイドブック—』（※1）である。このガイドブックのテーマは、「福祉行事・イベント」（※2）であり、ここでの効果の測定は、このテーマに即して検証することとした。作成プロセス等の質的側面についての効果測定は、今回行わず、あくまでも量的側面に着目して行っている。

効果測定は、次のような手順で行った。

- 1) ガイドブック配布時における分析対象の福祉行事・イベントへの参加度の把握
 - 用いたデータ：ガイドブック配布時アンケートデータ
 - アンケート実施時期：2008年6～8月
 - 実施方法：ガイドブック配布時にアンケート配布、回収
 - 回収率：97.9%（142名/145名中）
 - 分析方法：福祉行事・イベントへの参加に関する項目の度数分析
- 2) 約半年後の福祉行事・イベントへの参加行動実績の把握

- 用いたデータ：福祉行事・イベント参加促進キャンペーン応募データ
 - 回収時期：2009年1月
 - キャンペーン記念品応募時に2008年10～12月の福祉行事・イベントへの参加実績のわかるシール貼付方式手帳を回収
 - 分析対象：ガイドブック配布時アンケート対象で、かつキャンペーン参加した対象（2データの重複者）の56名を抽出
 - 分析方法：過去の福祉行事・イベント参加実績とキャンペーンにおける参加の関連分析
- 3) 福祉行事・イベント参加促進キャンペーンにおける参加条件分析
- 福祉行事・イベント参加促進キャンペーン応募データ（分析対象635名）】
 - 回収時期：2009年1月
 - キャンペーン記念品応募時に2008年10～12月の福祉行事・イベントへの参加実績のわかるシール貼付方式手帳を回収
 - 回収率：54.8%（635名/1,158名）
 - 分析方法：行事・イベント参加条件に関する項目とのクロス集計（ χ^2 検定）

3. 分析結果

1) ガイドブック配布時における分析対象の福祉行事・イベントへの参加度の把握

①分析対象の基本属性等

基本属性は、「男性」が66人（46.5%）、「女性」が76人（53.5%）である。

年齢別では「20歳代」が45人（31.7%）と最も多く、次いで「30歳代」が30人（21.1%）であった。現在の所属は、「ボランティア団体会員」が31人（21.8%）、「熱田区内福祉施設職員」が28人（19.7%）となっている。「上記以外」には、企業社員やNPO法人理事、自営業、教員などが含まれている。これらの結果は、このガイドブックの配布時に、意識してボランティア団体リーダーや、福祉施設の施設長や相談員、ボランティア担当者などに配布をすよう努めたことに起因する。次項以降の福祉行事・

表1 分析対象の基本属性等

		人数 (人)	割合 (%)
性別	男性	66	46.5
	女性	76	53.5
年齢	20歳以下	10	7.0
	21～30歳	45	31.7
	31～40歳	30	21.1
	41～50歳	18	12.7
	51～60歳	20	14.1
	61～70歳	11	7.7
	71～80歳	6	4.2
	81歳以上	2	1.4
所属	ボランティア団体会員	31	21.8
	熱田区内福祉施設職員	28	19.7
	熱田区外福祉施設職員	22	15.5
	学生	23	16.2
	行政、社協等職員	13	9.2
	上記以外	25	17.6
ボランティア活動	現在している	65	45.8
	現在していない	76	53.5
	過去したことがある	120	84.5
	過去したことない	21	14.8
熱田区地域福祉活動計画	読んだことがある	52	36.6
	読んだことがない	47	33.1
	知らない	43	30.3
あつた子育てマップ	読んだことがある	55	38.7
	読んだことがない	48	33.8
	知らない	39	27.5

イベントへの参加度について、そもそも一般的なものではなく、かなり福祉やボランティア活動に意識が高い層が多く含まれていることを踏まえておくことが必要である。

そのため、ボランティア活動を「現在している」が65人（45.8%）、「過去にしたことがある」が120人（84.5%）を占めている。にもかかわらず、熱田区地域福祉活動計画を「読んだことがある」のは52人（36.6%）、あつた子育てマップも55人

(38.7%)にとどまっている。

②分析対象の福祉行事・イベント参加度

図1は、ガイドブック配布者がこれまでに参加したことのある福祉行事・イベントを尋ねた結果である。

最も「参加したことがある」と回答が多かったのは、「夏祭り・秋祭りなど」の87人(61.3%)、次いで「バザー」の73人(51.4%)であった。この二つは、回答者の過半数が参加経験あるということになる。

また、「講演会・コンサートなど」は68人(47.9%)、「作品展・発表会など」及び「クリスマス会・敬老会・誕生会など」は58人(40.8%)、「花見・遠足・日帰り旅行など」は56人(39.4%)で、回答者の3人に1人以上の参加がある。

その他、「運動会・スポーツ大会など」は47人(33.1%)、「あったかあつた福祉フェスタ」は42人(29.6%)、「一泊以上の旅行」は33人(23.2%)が「参加したことがある」と回答している。

これらの中で、「あったかあつた福祉フェスタ」のみが特定の福祉イベント名で参加経験を尋ねているが、これは、熱田区最大の福祉イベントであること、ガイドブックに掲載している多くの福祉施設が関わっているイベントであることなどの理由により、項目を設けた。

今回のガイドブック配布者は、熱田区内在住者にとどまらず、広く愛知・岐阜・三重・長野などの各県在住者が含まれている。そのため、「あったかあつた福祉フェスタ」においては、「知らない」との回答が30人と他に比して多くなっている。

2) 約半年後の福祉行事・イベントへの参加行動実績の把握

ガイドブック作成は、テーマとしている「福祉行事・イベント」にいかに参加が促進されるかを検討しながら取り組んできた。ガイドブック配布効果をより高めるために、掲載している福祉施設の行事・イベントについて、手帳を持って回る参加促進キャンペーンを実施することとした。期間は2008年10月から12月までの3ヶ月間で、あらかじめキャンペーンの対象行事・イベントを設定して実施した。

表2 キャンペーン対象行事・イベント

福祉施設・機関名
福祉行事・イベント名
熱田区社会福祉協議会
○あったかあつた福祉フェスタ…11/16(日)
名身連第一ワークス/金山総合駅「福祉の店」
①10/14(火)～16(木)
②11/26(水)～28(金)
③12/15(月)・16(火)
ハートランド森/火曜市
①10/7・14・21・28・11/4・11
②11/18・25・12/2・9・16
あつた授産所
①愛のフェスティバル…10/5(日)
②クリスマス会…12/20(土)
生活介護事業所しらとり
①しらとりバザー…10/22(水)
②クリスマス会…12/25(木)
なごやかハウス横田
①秋の遠足…10/15(水)
②施設見学会…12/13(土)

ガイドブック配布時アンケートに回答者142名のうち、表2のような福祉行事・イベントへの参加促進キャンペーンに記念品応募をした者は65名であった。65名中、いずれかの行事・イベントに参加した56名について、ガイドブック配布時(2008年6～8月)以降、半年間で福祉行事・イベントへの参加度が高まったかどうかを測定することが可能である。

この56名は、熱田区内在住者が17名、熱田区外在住者が39名であった。

これら56名のデータを用いて、約半年間でガイドブックを配布した対象者が今まで参加したことのない福祉行事・イベントにどの程度参加したかどうかを分析した。

その結果が図2～7である。

図2は、熱田区内最大の福祉イベントであるが、分析対象56名中32名が参加経験なしであった。年

に一度のこのイベントに、2008年は56名中40名が参加しているが、このうち、20名が初めての参加であった。しかも、30名中19名は熱田区外在住者からの参加である。この参加行動が、ガイドブック配布による直接的な効果というのは早計であるが、参加経験のなかった複数の人がガイドブックでイベント内容を知り、動いた実績は効果といえる。

このように図3～図7の各行事・イベントについても同様に、今まで参加経験のなかった者が行動を起こしたものについて効果があったと測定した。

図3は、夏祭りや秋祭りへの参加についてであるが、キャンペーンでは、「愛のフェスティバル」が秋祭りの性格を有しているため、ここに対応して効果を測定した。今まで祭り等への参加経験がなかった者が20名中5名参加していることになる。

図4は、バザーへの参加である。バザー参加経験なしは25名であったが、このうち、1～6名ずつがバザー会場に足を運んでいる。

図5は、作品展、発表会への参加についてのもの。キャンペーンでは、これに直接対応するイベントはなかったが、特別養護老人ホームの施設見学会が比較的類似する企画であったことから対応をみた。キャンペーンでの見学会参加は二桁に上ったものの、これまで参加経験がなかった32名の中では参加行動には至っていない。

図6は、クリスマス会、敬老会、誕生会などの祝会への参加についてのものである。祝会への参加経験のない35名のうち、参加行動をとった者はゼロであった。

図7は、花見、遠足、日帰り旅行についての参加である。秋の遠足は、熱田区内の施設から数km離れている大須商店街への外出企画であったが、遠足等に参加経験のない35名中、参加したのは1名であった。

以上、これらの参加行動をまとめると、次のようなことがいえる。

今回のキャンペーンにおいて、あったかあつた福祉フェスタ、愛のフェスティバル、福祉の店、火曜日、しらとりバザーは、当日参加OKの行事・イ

ベントであった。この全てに対し、参加経験のなかった者が行動している結果となった。

一方、施設見学会、クリスマス会（2つの施設で実施）、秋の遠足などは、施設に事前連絡が必要な行事・イベントであった。唯一、秋の遠足で1名の参加がみられたものの、他では参加行動につながっていない。

これらのことから、過去の参加経験の有無や、施設付近在住かどうかに関係なく、その他の参加条件に影響される傾向が伺える。

3) 福祉行事・イベント参加促進キャンペーンにおける参加条件分析

2008年10～12月に実施したあつた福祉行事・イベント参加促進キャンペーンは、1,158名に参加を呼びかけ、そのうち2009年1月に記念品応募をしたのは635名であった。（回収率54.8%）

①分析対象の基本属性等

性別では、男性52.5%、女性47.5%、B年齢では30歳以下が27.1%と最も高く、次いで30歳代（26.8%）40歳代（18.8%）となっている。

所属別では、「ボランティア団体会員」が12.3%、熱田区内に本社のある企業で、今回のキャンペーンにCSR推進室を中心に協力頂いた「T社社員」の方々が55.3%、熱田区内の福祉施設職員及び福祉系大学生・専門学校生、そのOBらで構成されている「福祉施設職員・学生」が32.4%を占めている。

現在の居住地は、「熱田区内在住」が11.2%、「名古屋市在住」が42.5%、「その他在住」（愛知県内が大半だが、一部岐阜、三重、静岡西部含む）が46.3%を占める。

これらの分析対象は、キャンペーン開始前に「参加意向あり」が42.9%、「無関心」が39.1%、「参加意向なし」が10.5%、「不明」が7.4%であった。

キャンペーン終了後の参加意欲では、今後「キャンペーンがあれば」が38.1%と最も高く、次いで「どちらでもない」（27.2%）、「わからない」（16.6%）と続き、「積極的に参加希望」は15.0%にとどまった。

表3 分析対象の基本属性等

		人数 (人)	割合 (%)
性別	男性	319	52.5
	女性	289	47.5
	合計	608	100.0
年齢	30歳以下	165	27.1
	31～40歳	163	26.8
	41～50歳	114	18.8
	51～60歳	126	20.7
	61歳以上	40	6.6
	合計	608	100.0
所属	ボランティア団体会員	78	12.3
	T社社員	351	55.3
	福祉施設職員・学生	206	32.4
	合計	635	100.0
居住地域	熱田区内在住者	71	11.2
	名古屋市内在住者	270	42.5
	その他在住者	294	46.3
	合計	635	100.0
キャンペーン 開始前の 参加意欲	参加意向あり	261	42.9
	無関心	238	39.1
	参加意向なし	64	10.5
	不明	45	7.4
	合計	608	100.0
キャンペーン 後の参加意欲	積極的に参加希望	91	15.0
	キャンペーンがあれば	231	38.1
	どちらでもない	165	27.2
	わからない	101	16.6
	参加希望なし	19	3.1
	合計	607	100.0

以上の分析対象に対し、ガイドブックの効果測定に関連する項目として、「行事・イベントへの参加条件」がある。

福祉行事・イベントへの参加を促すガイドブックとしては、この条件に合致した情報を提供する必要がある。

性別、年齢、所属等の基本属性と、「行事・イベ

ント参加条件」とをクロス集計してみたところ、所属のみ有意な差がみられた。

②行事・イベント参加条件

表4は、その結果である。

福祉行事・イベントへの最優先参加条件は、「ボランティア団体会員」が「開催日程・時間」(42.7%)と「行事・イベントの内容」(37.3%)で全体の8割を占めた。

この傾向は、「福祉施設職員・学生」でも類似しているが、「行事・イベントの内容」(43.0%)が「開催日程・時間」(38.0%)よりも高い割合であった。

一方、「T社社員」では、上記と同様に「行事・イベントの内容」(37.2%)、「開催日程・時間」(26.6%)が上位を占めたものの、その割合は63.8%にとどまり、「開催場所へのアクセス」(16.9%)や「一緒に行く人がいるか」(16.0%)などの条件も他と比較して高くなっている。

これらのことから、ボランティア活動をしている層、福祉に関係している層については、行事・イベントの内容を充実させるとともに、参加しやすい開催日時を検討することが有効であると考えられる。その一方で、今まで福祉やボランティア活動などに縁遠い層に行事・イベントへの参加を促す場合には、会場のアクセスや複数で気軽に参加しやすい環境を整備することが求められるといえる。

4. 考察

本研究は、「福祉行事・イベント」をテーマとしたガイドブックの効果測定を試みた。

ガイドブック配布が、直接人々の行動を促す効果があるという直線的な因果関係での効果測定は現実的には難しい。

しかし、それまで福祉行事・イベントに一度も関わったことのない人が、ガイドブックを手にし、キャンペーンに促されることによって参加するということが量的にも測定することができた。

今回は、参加人数を数えるという最も基礎的な分析方法を用いている。これは、とかく複雑になりが

ちな分析手法を用いるのではなく、単純に参加人数を数えることでも十分にガイドブックの効果測定が可能であることを実証するために取り組んだ。

その結果は、先にまとめたとおりであるが、行事・イベント内容の充実は、今後の課題として残る。また、開催日時は参加対象層の設定によって大きく異なってくる。従来の地域活動を担ってきた子育て期の女性層や退職後の男性高齢者層であれば、平日の昼間でも参加可能な場合はあろうが、企業で働く層などには参加は厳しい。逆に、土日祝日であれば、よほど魅力的な内容でない限り、他のレジャーに出かけてしまうことになりかねない。平日夜間にカルチャーセンター通い気分で参加できる、あるいは通勤の途中に立ち寄れる気軽さ、気安さなどの様々な

工夫も必要ではないか。

一方、福祉現場では、これらのことを負担してまで、新規に参加者を増やしたいと切に考えているわけではない。目の前にいる援助が必要な利用者への対応で追われている現状がある。

このような状況下では、福祉行事・イベントを通して地域福祉を推進することは難しい面もあるが、だからこそ、気軽に福祉施設を訪れる機会としての行事・イベントが求められており、その機会を通じて、地域の多くの人々に福祉に関心を持ってもらえることが重要である。その意識の高まりは、アンケート等で把握することも一定可能ではあるものの、実際に行動に移すに至らない。本研究のように、行動実績を量的に把握する効果測定の試みは、1年間だけでは収集するデー

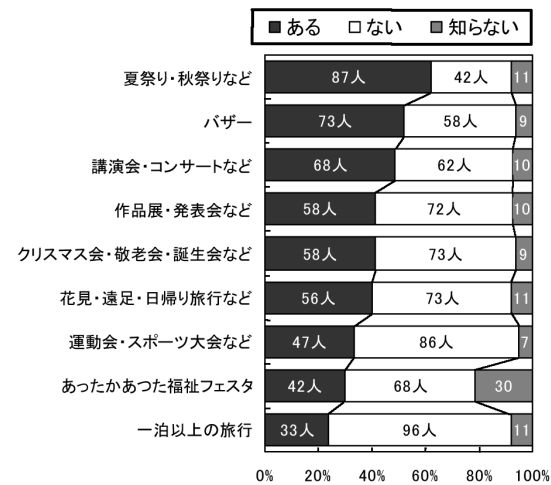


図1 福祉行事・イベントへの参加

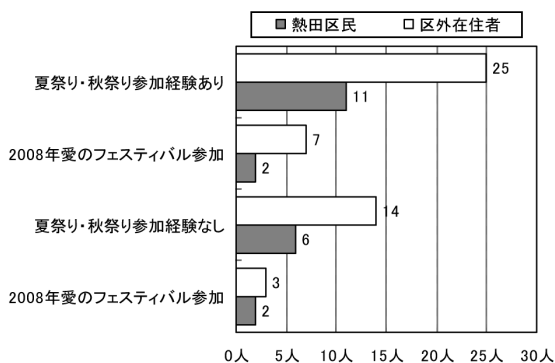


図3 祭りなど参加状況

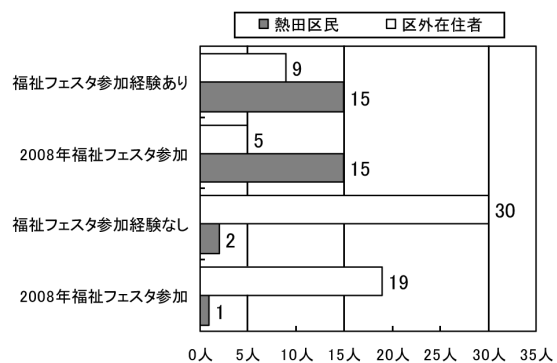


図2 あったか福祉フェスタへの参加状況

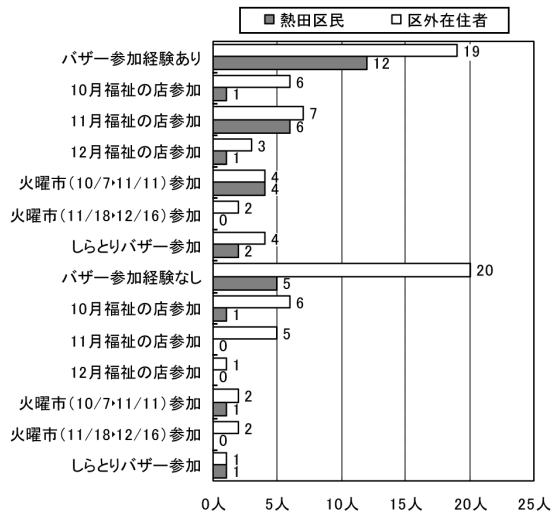


図4 バザー参加状況

タが限られてしまうが、今後も、効果測定に関する実証研究を進めていければと考えている。

※1) 『HOT!SHERPAーあつた福祉行事・イベントガイドブック』は、熱田区内で活動する福祉HOT!プロジェクト“あつた”（ボランティア団体）が、名古屋市熱田区社会福祉協議会の支援を受けて2008年5月に発行。発行部数は200部。

※2) 福祉行事は、福祉施設や福祉系ボランティア団体等が、月に一度、あるいは週に一度といった定期的な実施される行事のことを指す。

福祉イベントは、福祉施設や福祉系ボランティア団体等が、年に一度、あるいは単発で開催するイベントのことを指す。

【参考文献】

- ・名古屋市熱田区社会福祉協議会、『あつた地域福祉活動計画』, 2004

- ・福祉HOT!プロジェクト“あつた”, 『HOT!SHERPAーあつた福祉行事・イベントガイドブック』, 2008
- ・福祉HOT!プロジェクト“あつた”, 『地域福祉ガイドブックマニュアル』, 2009

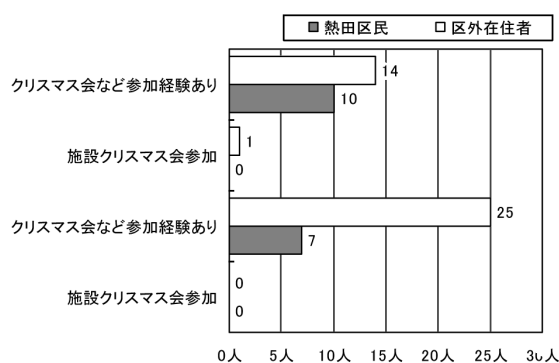


図6 クリスマス会など参加状況

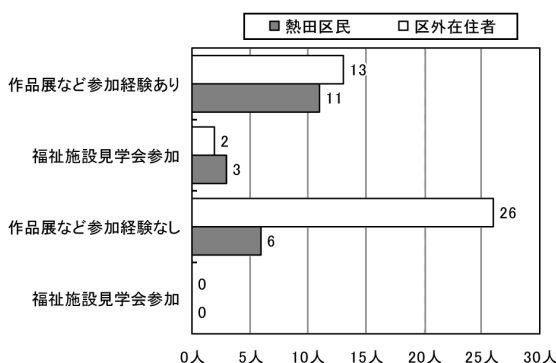


図5 作品展など参加状況

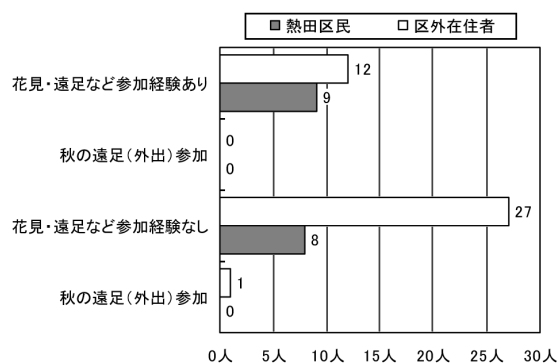


図7 遠足など参加状況

表4 所属別にみる行事・イベント参加条件

	行事・イベントの内容	開催日程・時間	開催場所へのアクセス	シールポイントの獲得	一緒に行く人がいるか	その他	合計
ボランティア 団体会員	28	32	4	0	9	2	75
	37.3%	42.7%	5.3%	0.0%	12.0%	2.7%	100.0%
T社社員	123	88	56	4	53	7	333
	37.2%	26.6%	16.9%	1.2%	16.0%	2.1%	100.0%
福祉施設 職員・学生	86	76	11	3	23	1	200
	43.0%	38.0%	5.5%	1.5%	11.5%	0.5%	100.0%
合計	237	196	71	7	85	10	608
	39.1%	32.3%	11.7%	1.2%	14.0%	1.7%	100.0%

p < 0.01